

## 「吾れ日に三たび吾が身を省る(吾日三省吾身)」(「論語」より)

「吾れ日に三たび吾が身を省る。人のために謀りて忠ならざるか、朋友と交わりて信ならざるか、習わざるを伝うるか。」  
曾 子

冒頭の一節ですが、現代語訳は次のような内容です。「わたしは毎日何度もわが身について反省する。人のために考えてあげてまごころからできなかったのではないか。友達と交際して誠実でなかったのではないか。よくおさらいもしないことを(受けうり)で人に教えたのではないかと。」(「論語」(岩波文庫)より引用)

論語は、孔子やその弟子の言行を記載したものです。この一節は、孔子晩年の弟子とされる曾子(そうし)の言葉として伝わるものです。ちなみに、辞書等で有名な「三省堂」の社名は、この「吾日三省吾身」に由来するとされています。

余談はさておき、この一節も、論語の一部ですので、人としての「生き方」について述べられているわけですが、ここで述べられている「反省する」という行為は、仕事を通しての職業人としての成長、成熟にとっても、とても重要なものであると思います。一方、「反省する」というと、何か倫理的に悪いことをして、自らを省みるというふうに使われることもあるので、少し抵抗感があるかもしれません。もしそうであるなら、「振り返る」と思っただけであれば、抵抗感が少なくなると思います。

例えば、ある仕事が終わった後に、「もっと他にやりようがあったのではないか」とか、「もっと早くから着手していれば良かった」とか、こうしたことを多くの方が経験していると思います。このような時には、苦い思いとともに、ときには自己嫌悪に陥るようなこともあると思いますが、その際に、事態を冷静に振り返り、今後活かしていくことで、人はより成長し、成熟できるのではないかと思います。

「艱難汝を玉にす」ということわざもあります。困難なことや面倒ごとは、なるべく避けたいところですが、様々な事情によりそれに立ち向かわざるを得ないときもあります。そうしたときに、精神的、肉体的な限界を超えるような無理はよくありませんが、周囲の協力等を得ながら、その状況から逃げずに立ち向かい、何らかの成果を残すことができれば、そうして得た経験や自信などは、職業人としての成長のための大きな糧となります。そして、この際に、事態を冷静に「振り返る」ことができれば、後々のさらなる成長や成熟へと繋がっていくのではないかと考えられます。

一方で、周囲の人から、何度か注意を受けても、同じような過ちを繰り返してしまうことがあるとすれば、助言などを自己の血肉とする「振り返る」という行為が十分に行われていないのかもしれませんが、「振り返る」という行為は、同じような過ちを繰り返さないために、とても重要なものであり、さらにこうした日々の「振り返り」は、大きな事故や不祥事を防止することにも、とても効果のあるものと思われる。

また、仕事上の信念を持つことは大切ですが、変化の激しい現代社会にあっては、時と場合によっては、その信念が周囲からみると独りよがりの行為となっていることもあり得ます。他者の助言に対して、真摯に耳を傾け、時に立ち止まって自己の考えや行為を振り返ることは、自戒の念も込めて、どんな人にも必要なことであると思います。

令和5(2023)年 11 月



一般財団法人 かながわ水・エネルギーサービス  
理 事 長 松 井 聡 明